◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2025年度入学生適用

1. 博士前期課程における研究指導計画

必修の「演習」では学位論文の完成を目指す。2年次前期の構想発表会と後期の中間発表会において本専攻の全教員による指導を行う。修士論文の完成に向けては、主指導教員(論文審査の主査に予定)以外に、1名の副指導教員(論文審査副査に予定)も指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教
	員を決定する。
	各大学院生は、専攻する領域の基礎科目の「概論」「交流史論」「史料論」から2科
	目を選択する。当該指導教員が担当する「演習 I」「演習 II」を履修し、その助言を
	受けて研究テーマに適合する「研究」の履修科目を決定し、履修登録する。
	「演習 I」「演習 II」または「研究」では各大学院生の修士論文の作成に必要な基礎
	的技術や視点を学び、個別の研究テーマの明確化作業を一年間通じて行う。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教
	員の確認を受ける。
12月	修士論文の論文題目を仮決定し、指導教員に報告する。

【2年次】

4月	各大学院生は、1 年次に引き続き指導教員が担当する「演習 III」「演習 IV」を履修
	し、またその助言を受けて2年次の履修科目を決定・登録する。
	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況を構想発表会で報告し、
	専攻に関わる全教員から指導と助言を受ける。あわせて修士論文の概要を指導教員に
	提出する。
	各大学院生は、指定された日時に「修士論文題目届」を提出する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況を中間発表会で報告し、
	指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。
1月	修士論文の提出
1月~2月	審査委員(主査1名、副査1名)を決定し、論文査読ならびに口述試験による最終
	試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協
	議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2. 学位(修士) 論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

修士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

- ①テーマの選択が明確であること。
- ②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
- ③一次史料を含めて、研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
- ④独自の知見や発想、斬新な着眼点を示す研究であること。
- ⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
- ⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、修士論文の審査に際して、論文審査委員(主査1名、副査1名)が選任され、論 文査読ならびに口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載され る。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、修士論文とし ての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、 学位(修士)を授与することになる。

○文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程授業科目及び履修単位 2025年度入学生適用

(○主指導教員)

							, -		1 13 374247
			単	位					
区分	科 目 名	1	年	2	年	担	当	者	名
		単位	開講期	単位	開講期				
基	ヨーロッパ文化史概論 I	2	半期			杵	淵	文	夫
基礎科目	ヨーロッパ文化史概論Ⅱ	2	半期			杵	淵	文	夫
	ヨーロッパ文化交流史論 I	2	半期			櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化交流史論Ⅱ	2	半期			櫻	井	康	人
	ヨーロッパ史史料論Ⅰ	2	半期			渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ史史料論Ⅱ	2	半期			楠		義	彦
İ	ヨーロッパ史史料論Ⅲ	2	半期			櫻	井	康	人
	キリスト教思想・文化史概論I	2	半期			田	島		卓
	キリスト教思想・文化史概論Ⅱ	2	半期			Щ	島	堅	二
	キリスト教思想・文化史概論Ⅲ	2	半期			渡	邊	有	美
İ	キリスト教思想・文化史概論Ⅳ	2	半期			吉	田		新
İ	キリスト教美術史概論	2	半期			渡	邊	有	美
選	ヨーロッパ文化史研究 Ⅰ	2	半期			櫻	井	康	人
択り	ヨーロッパ文化史研究Ⅱ	2	半期			櫻	井	康	人
選択必修科目	ヨーロッパ文化史研究Ⅲ	2	半期			楠		義	彦
科目	ヨーロッパ文化史研究Ⅳ	2	半期			楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史研究V	2	半期			渡	辺	昭	_
İ	ヨーロッパ文化史研究VI	2	半期			渡	辺	昭	_
	キリスト教思想・文化史研究I	2	半期			吉	田		新
	キリスト教思想・文化史研究Ⅱ	2	半期			(2	5年月	き休請	<u>‡</u>)
	キリスト教思想・文化史研究Ⅲ	2	半期			田	島		卓
İ	キリスト教思想・文化史研究Ⅳ	2	半期			田	島		卓
İ	キリスト教思想・文化史研究V	2	半期			Щ	島	堅	二
	キリスト教思想・文化史研究VI	2	半期			Щ	島	堅	二
	キリスト教美術史研究 I	2	半期			渡	邊	有	美
	キリスト教美術史研究Ⅱ	2	半期			渡	邊	有	美
必	ヨーロッパ文化史演習 I (新約聖書学)	2	半期			吉	田		新
必修科	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (新約聖書学)	2	半期			吉	田		新
科 目	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (新約聖書学)			2	半期	吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (新約聖書学)			2	半期	吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習 I (初期キリスト教史)	2	半期			吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ(初期キリスト教史)	2	半期			吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ(初期キリスト教史)			2	半期	吉	田		新
•	`								

	単位									
区分	科 目 名	1		2	年		担	当	者	名
	11 1	L	開講期		開講期		,	_	н	
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ(初期キリスト教史)	1 1.22	D13 H13 793	2	半期		吉	Ш		 新
	ヨーロッパ文化史演習 I (宗教改革史)	2	半期	_			Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ(宗教改革史)	2	半期				Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ(宗教改革史)		1 793	2	半期		<u>川</u>	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習 IV (宗教改革史)			2	半期		<u>川</u>	島	堅	
	ヨーロッパ文化史演習 I				1 793			1-0		
	(近・現代キリスト教思想史)	2	半期				Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (近・現代キリスト教思想史)	2	半期				Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (近・現代キリスト教思想史)			2	半期		Ш	島	堅	二
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (近・現代キリスト教思想史)			2	半期		Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習 I (キリスト教美術史)	2	半期				渡	- 邊	有	 美
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ(キリスト教美術史)	2	半期				渡	邊	有	 美
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ(キリスト教美術史)		1 //4	2	半期	-	渡	邊	有	 美
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ(キリスト教美術史)			2	半期	-	渡	邊	有	美
	ヨーロッパ文化史演習 I					0	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)	2	半期				楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ					0	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)	2	半期				楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ				At HH	0	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)			2	半期		楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ				VI. HH	0	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)			2	半期		楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習 I		AL HEI			0	楠		義	彦
	(ヨーロッパ近世社会の構造)	2	半期				櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ		VIV. ###			0	楠		義	彦
	(ヨーロッパ近世社会の構造)	2	半期				櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ			0	가? 유료	0	楠		義	彦
	(ヨーロッパ近世社会の構造)			2	半期		櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習 IV			0	가? 유료	0	楠		義	彦
	(ヨーロッパ近世社会の構造)			2	半期		櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習 I		VIV. ###			0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)	2	半期				渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ		/lv #HH			0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)	2	半期				渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ				गिर सम	0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)			2	半期		渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ				/l/ 11th	0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)			2	半期		渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習 I		VIV. #+H			0	渡	辺	昭	_
	(ヨーロッパ現代史の構造)	2	半期				杵	淵	文	夫
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ	0	717 升口			0	渡	辺	昭	_
	(ヨーロッパ現代史の構造)	2	半期				杵	淵	文	夫
'										

			単									
区分	科 目 名	1	年	2	年		担	当	者	名		
		単位	開講期	単位	開講期							
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ			9	半期	0	渡	辺	昭	_		
	(ヨーロッパ現代史の構造)			Δ		于期	十州		杵	淵	文	夫
	ヨーロッパ文化史演習 IV			2	半期	0	渡	辺	昭	_		
	(ヨーロッパ現代史の構造)		! !		一一		杵	淵	文	夫		

◎履修方法

2025年度入学生適用

2年以上在学して、上記授業科目より30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

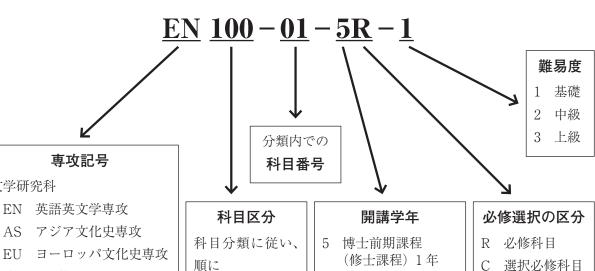
- (1) 演習 I · Ⅱ · Ⅲ · Ⅳ は必修科目とし、8 単位を修得するものとする。
- (2) 基礎科目 (4単位以上) 及び選択必修科目 (8単位以上) を含む 22単位以上を修得するものとする。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針(ディプロマポリシー)のいずれを 達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授 与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針 の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表 しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



大分類、中分類、

中分類または小分

類がない場合は0。

小分類

文学研究科

AS アジア文化史専攻

EU ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科

EC 経済学専攻

DS 経済データサイエンス専攻

経営学研究科

BU 経営学専攻

法学研究科

LA 法律学専攻

工学研究科

ME 機械工学専攻

EI 電気工学専攻

EE 電子工学専攻

CE 環境建設工学専攻

人間情報学研究科

HU 人間情報学専攻

- (修士課程) 1年
- 6 博士前期課程 (修士課程)2年
- 7 博士後期課程1年
- 8 博士後期課程2年
- 9 博士後期課程3年
- C 選択必修科目
- E 選択科目

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ 2025年度入学生適用

	NEW 7 13	学位授与の方針(ディプロマポリシー)									
科目ナンバリング	科 目 名	専攻分野に関する 幅広い視野、基本 的な知識及び思考 力を有する	専攻分野に関する 研究課題につい て、専門的で学術 的な価値のある知 見を有する	専攻分野に関する 学術研究の遂行及 び成果の公表にむ けて、研究者とし て必要な知識、技 能、意識を有する							
EU100-01-5E-1	ヨーロッパ文化史概論 I	0									
EU100-02-5E-1	ヨーロッパ文化史概論Ⅱ	0									
EU100-03-5E-1	ヨーロッパ文化交流史論 I	0									
EU100-04-5E-1	ヨーロッパ文化交流史論Ⅱ	0									
EU100-05-5E-1	ヨーロッパ史史料論 I	0									
EU100-06-5E-1	ヨーロッパ史史料論Ⅱ	0									
EU100-07-5E-1	ヨーロッパ史史料論Ⅲ	0									
EU100-08-5E-1	キリスト教思想・文化史概論 I	0									
EU100-09-5E-1	キリスト教思想・文化史概論Ⅱ	0									
EU100-10-5E-1	キリスト教思想・文化史概論Ⅲ	0									
EU100-11-5E-1	キリスト教思想・文化史概論IV	0									
EU100-12-5E-1	キリスト教美術史概論	0									
EU200-01-5C-2	ヨーロッパ文化史研究 I		0	0							
EU200-02-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅱ		0	0							
EU200-03-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅲ		0	0							
EU200-04-5C-2	ヨーロッパ文化史研究IV		0	0							
EU200-05-5C-2	ヨーロッパ文化史研究V		0	0							
EU200-06-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅵ		0	0							
EU200-07-5C-2	キリスト教思想・文化史研究 I		0	0							
EU200-08-5C-2	キリスト教思想・文化史研究Ⅱ		0	0							
EU200-09-5C-2	キリスト教思想・文化史研究Ⅲ		0	0							
EU200-10-5C-2	キリスト教思想・文化史研究IV		0	0							
EU200-11-5C-2	キリスト教思想・文化史研究V		0	0							
EU200-12-5C-2	キリスト教思想・文化史研究VI		0	0							
EU200-13-5C-2	キリスト教美術史研究 I		0	0							
EU200-14-5C-2	キリスト教美術史研究Ⅱ		0	0							
EU300-01-5R-2	ヨーロッパ文化史演習 I		0	0							
EU300-02-5R-2	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ		0	0							
EU300-03-6R-3	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ		0	0							
EU300-04-6R-3	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ		0	0							

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2024年度以前入学生適用

1. 博士前期課程における研究指導計画

必修の「演習」では学位論文の完成を目指す。2年次前期の構想発表会と後期の中間発表会において本専攻の全教員による指導を行う。修士論文の完成に向けては、主指導教員(論文審査の主査に予定)以外に、1名の副指導教員(論文審査副査に予定)も指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

1 1 2 1	
4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教
	員を決定する。
	各大学院生は、専攻する領域の基礎科目の「概論」「交流史論」「史料論」から2科
	目を選択する。当該指導教員が担当する「演習 I」「演習 II」を履修し、その助言を
	受けて研究テーマに適合する「研究」の履修科目を決定し、履修登録する。
	「演習 I」「演習 II」または「研究」では各大学院生の修士論文の作成に必要な基礎
	的技術や視点を学び、個別の研究テーマの明確化作業を一年間通じて行う。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教
	員の確認を受ける。
12月	修士論文の論文題目を仮決定し、指導教員に報告する。

【2年次】

4月	各大学院生は、1 年次に引き続き指導教員が担当する「演習 III」「演習 IV」を履修
	し、またその助言を受けて2年次の履修科目を決定・登録する。
	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況を構想発表会で報告し、
	専攻に関わる全教員から指導と助言を受ける。あわせて修士論文の概要を指導教員に
	提出する。
	各大学院生は、指定された日時に「修士論文題目届」を提出する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況を中間発表会で報告し、
	指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。
1月	修士論文の提出
1月~2月	審査委員(主査1名、副査1名)を決定し、論文査読ならびに口述試験による最終
	試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協
	議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2. 学位(修士) 論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

修士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

- ①テーマの選択が明確であること。
- ②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
- ③一次史料を含めて、研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
- ④独自の知見や発想、斬新な着眼点を示す研究であること。
- ⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
- ⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、修士論文の審査に際して、論文審査委員(主査1名、副査1名)が選任され、論 文査読ならびに口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載され る。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、修士論文とし ての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、 学位(修士)を授与することになる。

○文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程授業科目及び履修単位 2024年度以前入学生適用

(○主指導教員)

									1 11 1/1/2//
			単	位					
区分	科 目 名	1	年	2	年	担	当	者	名
		単位	開講期	単位	開講期				
基	ヨーロッパ文化史概論 I	2	半期			杵	淵	文	夫
基礎科目	ヨーロッパ文化史概論Ⅱ	2	半期			杵	淵	文	夫
目	ヨーロッパ文化交流史論 I	2	半期			櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化交流史論Ⅱ	2	半期			櫻	井	康	人
	ヨーロッパ史史料論 I	2	半期			渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ史史料論Ⅱ	2	半期			楠		義	彦
	ヨーロッパ史史料論Ⅲ	2	半期			櫻	井	康	人
	キリスト教思想・文化史概論 I	2	半期			田	島		卓
	キリスト教思想・文化史概論Ⅱ	2	半期			Л	島	堅	二
	キリスト教思想・文化史概論Ⅲ	2	半期			渡	邊	有	美
	キリスト教思想・文化史概論IV	2	半期			吉	田		新
	キリスト教美術史概論	2	半期			渡	邊	有	美
選	ヨーロッパ文化史研究 I	2	半期			櫻	井	康	人
選択	ヨーロッパ文化史研究Ⅱ	2	半期			櫻	井	康	人
必修科目	ヨーロッパ文化史研究Ⅲ	2	半期			楠		義	彦
科 日	ヨーロッパ文化史研究Ⅳ	2	半期			楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史研究V	2	半期			渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史研究VI	2	半期			渡	辺	昭	_
	キリスト教思想・文化史研究 I	2	半期			吉	田		新
	キリスト教思想・文化史研究Ⅱ	2	半期			(5	本年月	度休請	
	キリスト教思想・文化史研究Ⅲ	2	半期			田	島		卓
	キリスト教思想・文化史研究IV	2	半期			田	島		卓
	キリスト教思想・文化史研究V	2	半期			Л	島	堅	$\vec{=}$
	キリスト教思想・文化史研究VI	2	半期			Л	島	堅	$\vec{=}$
	キリスト教美術史研究 I	2	半期			渡	邊	有	美
	キリスト教美術史研究Ⅱ	2	半期			渡	邊	有	美
必	ヨーロッパ文化史演習 I (新約聖書学)	2	半期			吉	田		新
必修科	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (新約聖書学)	2	半期			吉	田		新
目目	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (新約聖書学)			2	半期	吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (新約聖書学)			2	半期	吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習 I (初期キリスト教史)	2	半期			吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ(初期キリスト教史)	2	半期			吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ(初期キリスト教史)			2	半期	吉	田		新
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ(初期キリスト教史)			2	半期	吉	田		新
- '									

	単位									
区分	科 目 名	1		2	年		担	当	者	名
		単位	開講期	単位	開講期					
	ヨーロッパ文化史演習 I (宗教改革史)	2	半期				Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (宗教改革史)	2	半期				Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (宗教改革史)			2	半期		Ш	島	堅	二
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (宗教改革史)			2	半期		Ш	島	堅	二
	ヨーロッパ文化史演習 I (近・現代キリスト教思想史)	2	半期				Ш	島	堅	二
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (近・現代キリスト教思想史)	2	半期				Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (近・現代キリスト教思想史)			2	半期		Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (近・現代キリスト教思想史)			2	半期		Ш	島	堅	=
	ヨーロッパ文化史演習 I (キリスト教美術史)	2	半期			-	渡	邊	有	 美
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ(キリスト教美術史)	2	半期				渡	邊	有	美
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ(キリスト教美術史)			2	半期		渡	邊	有	美
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ(キリスト教美術史)			2	半期		渡	邊	有	美
	ヨーロッパ文化史演習 Ⅰ	2	半期			0	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)		T-79J				楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ	2	半期			\circ	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)		1 793				楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ			2	半期	\circ	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)			_	1 //4		楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習IV			2	半期	0	櫻	井	康	人
	(ヨーロッパ中世社会の構造)						楠		義	彦
	ヨーロッパ文化史演習 I	2	半期			0	楠	.11.	義	彦
	(ヨーロッパ近世社会の構造)						櫻井	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (ヨーロッパ近世社会の構造)	2	半期			0	楠棚	-11-	義	彦
							櫻姑	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (ヨーロッパ近世社会の構造)			2	半期	0	楠櫻	井	義康	彦 人
	ヨーロッパ文化史演習IV					0	楠	开		彦
	(ヨーロッパ文化交演音W (ヨーロッパ近世社会の構造)			2	半期		櫻	井	康	人
	ヨーロッパ文化史演習 I					0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)	2	半期			0	渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ					0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)	2	半期			_	渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ			_	, I, III	0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)			2	半期		渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ			0	717 升口	0	杵	淵	文	夫
	(ヨーロッパ近代史の構造)			2	半期		渡	辺	昭	_
	ヨーロッパ文化史演習 I	0	才7 井山			0	渡	辺	昭	_
	(ヨーロッパ現代史の構造)	2	半期				杵	淵	文	夫
	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ	2	半期			0	渡	辺	昭	_
	(ヨーロッパ現代史の構造)		一一为				杵	淵	文	夫

			単	位							
区分	科 目 名	1	年	2	年		担	当	者	名	
		単位	開講期	単位	開講期						
	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ			2 半期	9	半期	0	渡	辺	昭	_
	(ヨーロッパ現代史の構造)				十朔			杵	淵	文	夫
	ヨーロッパ文化史演習 IV		9		半期	0	渡	辺	昭		
	(ヨーロッパ現代史の構造)				十朔		杵	淵	文	夫	

◎履修方法

2024年度以前入学生適用

2年以上在学して、上記授業科目より30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

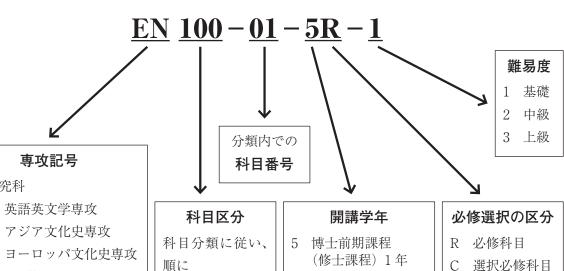
- (1) 演習 $I \cdot II \cdot III$
- (2) 基礎科目 (4単位以上) 及び選択必修科目 (8単位以上) を含む 22単位以上を修得するものとする。
- (3) アジア文化史専攻に開設されている授業科目のうちから選択履修することができるものとし、 履修する4単位を限度に課程修了に必要な単位として認める。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針(ディプロマポリシー)のいずれを 達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授 与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針 の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表 しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



大分類、中分類、

中分類または小分

類がない場合は0。

小分類

文学研究科

EN 英語英文学専攻

AS アジア文化史専攻

EU ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科

EC 経済学専攻

DS 経済データサイエンス専攻

経営学研究科

BU 経営学専攻

法学研究科

LA 法律学専攻

工学研究科

ME 機械工学専攻

EI 電気工学専攻

EE 電子工学専攻

CE 環境建設工学専攻

人間情報学研究科

HU 人間情報学専攻

- (修士課程) 1年
- 6 博士前期課程 (修士課程)2年
- 7 博士後期課程1年
- 8 博士後期課程2年
- 9 博士後期課程3年
- C 選択必修科目
- E 選択科目

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士前期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ 2024年度以前入学生適用

	于 <u>工</u> 炮/ij	学位授与の方針 (ディプロマポリシー)									
科目ナンバリング	科 目 名	専攻分野に関する 幅広い視野、基本 的な知識及び思考 力を有する	専攻分野に関する 研究課題につい て、専門的で学術 的な価値のある知 見を有する	専攻分野に関する 学術研究の遂行及 び成果の公表にむ けて、研究者とし て必要な知識、技 能、意識を有する							
EU100-01-5E-1	ヨーロッパ文化史概論 I	0									
EU100-02-5E-1	ヨーロッパ文化史概論Ⅱ	0									
EU100-03-5E-1	ヨーロッパ文化交流史論 I	0									
EU100-04-5E-1	ヨーロッパ文化交流史論Ⅱ	0									
EU100-05-5E-1	ヨーロッパ史史料論 I	0									
EU100-06-5E-1	ヨーロッパ史史料論Ⅱ	0									
EU100-07-5E-1	ヨーロッパ史史料論Ⅲ	0									
EU100-08-5E-1	キリスト教思想・文化史概論 I	0									
EU100-09-5E-1	キリスト教思想・文化史概論Ⅱ	0									
EU100-10-5E-1	キリスト教思想・文化史概論Ⅲ	0									
EU100-11-5E-1	キリスト教思想・文化史概論Ⅳ	0									
EU100-12-5E-1	キリスト教美術史概論	0									
EU200-01-5C-2	ヨーロッパ文化史研究 I		0	0							
EU200-02-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅱ		0	0							
EU200-03-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅲ		0	0							
EU200-04-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅳ		0	0							
EU200-05-5C-2	ヨーロッパ文化史研究V		0	0							
EU200-06-5C-2	ヨーロッパ文化史研究Ⅵ		0	0							
EU200-07-5C-2	キリスト教思想・文化史研究I		0	0							
EU200-08-5C-2	キリスト教思想・文化史研究Ⅱ		0	0							
EU200-09-5C-2	キリスト教思想・文化史研究Ⅲ		0	0							
EU200-10-5C-2	キリスト教思想・文化史研究Ⅳ		0	0							
EU200-11-5C-2	キリスト教思想・文化史研究V		0	0							
EU200-12-5C-2	キリスト教思想・文化史研究VI		0	0							
EU200-13-5C-2	キリスト教美術史研究 I		0	0							
EU200-14-5C-2	キリスト教美術史研究Ⅱ		0	0							
EU300-01-5R-2	ヨーロッパ文化史演習 I		0	0							
EU300-02-5R-2	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ		0	0							
EU300-03-6R-3	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ		0	0							
EU300-04-6R-3	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ		0	0							

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2025年度入学生適用

1. 博士後期課程における研究指導計画

博士後期課程は研究者養成を主眼としているので、より高度な指導を行う。提出された「研究計画書」をもとに、研究関連分野の原典および研究論文の読解を中心とする「演習」を2年間にわたって行い、指導教員(主指導教員と副指導教員)がそれぞれの専門分野において博士論文完成までの指導を行う。その過程で博士論文提出までに学術雑誌に論文3本(うち査読付き1本)を発表させる。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科教員によるガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づ
	き、指導教員(主指導教員及び副指導教員)を決定する。
	各大学院生は、指導教員の「演習 I」「演習 II」を履修し、指導教員と相談の上、
	1年次終了時の到達目標を決定する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について、指導教員に報
	告し、指導と助言を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月	1年次に引き続き各大学院生は、指導教員の「演習 III」「演習 IV」を履修し、授業
	を通して博士論文のテーマに即した指導を受ける。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について中間報告会で報
	告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。
2月	各大学院生は、「博士論文中間報告書」を指導教員に提出する。

【3 年次】

	4月	各大学院生は、指導教員の「論文指導 I」「論文指導 II」を履修し、博士論文の完
		成を目指して必要な助言と指導を受ける。
	9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について中間報告会で報
		告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。
	1月	博士論文を提出する。
1)	月~2月	審査委員4名(主査1名・副査3名)を決定し、論文査読ならびに口述試験による
		最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議
		の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2. 学位 (博士) 論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

博士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

- ①テーマの選択が明確であること。
- ②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
- ③一次史料を含めて、研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
- ④研究内容や着眼点に独創性があり、当該研究分野への学術的な貢献ができる研究であること。
- ⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
- ⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、博士論文の審査に際して、論文審査委員(主査1名、副査3名:うち1名は学外の専門研究者)が選任され、論文査読ならびに口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、博士論文としての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位(博士)を授与することになる。

○文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程授業科目及び履修単位 2025年度入学生適用

(○主指導教員)

)					(〇工组等教員)		
	単位							
科 目 名	1		2			年	担当	者名
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期		
ヨーロッパ文化史演習 I (初期キリスト教文献の研究)	2	半期					吉田	新
ヨーロッパ文化史演習 II (初期キリスト教文献の研究)	2	半期					吉田	新
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (初期キリスト教文献の研究)			2	半期			吉田	新
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (初期キリスト教文献の研究)			2	半期			吉田	新
ヨーロッパ文化史演習 I (ヨーロッパ社会の成立と構造)	2	半期					〇櫻井楠	康人 義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (ヨーロッパ社会の成立と構造)	2	半期					〇櫻井楠	康人 義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (ヨーロッパ社会の成立と構造)			2	半期			〇櫻井楠	康人 義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (ヨーロッパ社会の成立と構造)			2	半期			櫻井	康人
ヨーロッパ文化史演習 I (宗教改革とヨーロッパ社会)	2	半期					楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (宗教改革とヨーロッパ社会)	2	半期					楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (宗教改革とヨーロッパ社会)			2	半期			楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (宗教改革とヨーロッパ社会)			2	半期			楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習 I (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)	2	半期					○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)	2	半期		 			○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)			2	半期			○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)			2	半期			○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習 I (キリスト教美術の成立と展開)	2	半期					(本年月	

科 目 名	1	年	2	年	3	年	担当者名
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期	
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (キリスト教美術の成立と展開)	2	半期					(本年度休講)
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (キリスト教美術の成立と展開)			2	半期			(本年度休講)
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (キリスト教美術の成立と展開)			2	半期			(本年度休講)
論文指導 I (初期キリスト教文献の研究)					2	半期	吉田新
論文指導Ⅱ (初期キリスト教文献の研究)					2	半期	吉田新
論文指導 I (ヨーロッパ社会の成立と構造)					2	半期	○ 櫻井 康人楠 義彦
論文指導Ⅱ (ヨーロッパ社会の成立と構造)					2	半期	○ 櫻井 康人楠 義彦
論文指導 I (宗教改革とヨーロッパ社会)					2	半期	楠 義彦
論文指導Ⅱ (宗教改革とヨーロッパ社会)					2	半期	楠 義彦
論文指導 I (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)					2	半期	○ 川島 堅二渡辺 昭一
論文指導Ⅱ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)					2	半期	○ 川島 堅二 渡辺 昭一
論文指導 I (キリスト教美術の成立と展開)					2	半期	(本年度休講)
論文指導Ⅱ (キリスト教美術の成立と展開)					2	半期	(本年度休講)

◎履修方法

2025年度入学生適用

3年以上在学し、授業科目について12単位(演習8単位、論文指導4単位)を修得し、指導教授の指導の下に必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者と認められる場合には在学期間を短縮し、2年の在学期間をもって修了することができる。

◎履修指導・研究指導の方法

博士後期課程の学生は既に修士論文を作成した経験をもっているのが普通であり、入・進学の時点である程度まで研究テーマが絞られている。そのテーマを真に意味のあるものに鍛え上げ、確実な成果を上げうるように次のような演習、論文指導を行う。

本専攻は、概ね時代別に5つの「研究分野」を設定し、相互に密接な研究テーマを専攻する指導教員が各分野に分属して、それぞれの演習を担当する。さらに論文指導は、各研究分野において演習と関連をもたせながら、直接指導にあたる教員が主指導教員となって行い、これに他の指導教員が協力するという方式をとる。もとより各研究分野の指導教員は必要に応じて他分野に対しても協力する。

ヨーロッパ文化史演習 I・Ⅱ (1 年次)	あらかじめ提出された「研究計画書」をもとに、所属する研究分野で、 主指導教員が中心となってセミナーを行う。先ず博士論文のテーマ及び その研究方法の確認を主たる目標とし、先行研究の調査・整理及びその 正確な理解方法を指導する。他の指導教員はこれに協力する。
ヨーロッパ文化史演習 Ⅲ・Ⅳ (2年次)	主指導教員を中心とし、当該研究分野の他の指導教員の協力による指導体制のもとで、博士論文の骨格作りを目標とするセミナーを行う。ここでは特に研究課題にかかわる資料の調査・蒐集とその批判的研究及びその正確な理解方法等を指導する。
論文指導Ⅰ・Ⅱ (3年次)	演習Ⅲ・Ⅳと同じ指導体制のもとで、博士論文作成に必要な具体的指導を行う。

*文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程研究分野

研究分野 I:初期キリスト教

研究分野 II: ヨーロッパ社会の成立と構造 研究分野 II: 宗教改革とヨーロッパ社会

研究分野Ⅳ:近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開

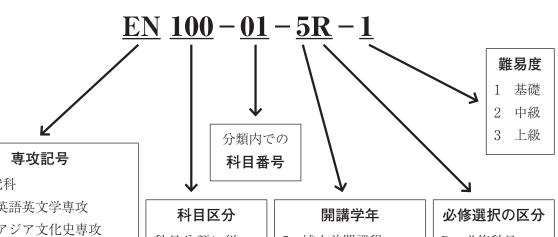
研究分野 V:キリスト教美術の成立と展開

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針(ディプロマポリシー)のいずれを 達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授 与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針 の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表 しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



文学研究科

EN 英語英文学専攻

AS アジア文化史専攻

EU ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科

EC 経済学専攻

DS 経済データサイエンス専攻

経営学研究科

BU 経営学専攻

法学研究科

LA 法律学専攻

工学研究科

ME 機械工学専攻

EI 電気工学専攻

EE 電子工学専攻

CE 環境建設工学専攻

人間情報学研究科

HU 人間情報学専攻

科目分類に従い、 順に

大分類、中分類、 小分類

中分類または小分 類がない場合は0。

- 5 博士前期課程 (修士課程) 1年
- 6 博士前期課程 (修士課程)2年
- 7 博士後期課程1年
- 8 博士後期課程2年
- 9 博士後期課程3年

- R 必修科目
- C 選択必修科目
- E 選択科目

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ 2025年度入学生適用

		兴县域片	の方針(ディプロマス	19 11 3 \
		専攻分野に関する幅広い視野、専門	専攻分野に関する研究課題につい	専攻分野に関する学術研究の継続的
科目ナンバリング	科 目 名	的な知識及び思考 力を有する	て、高度に専門的 で、学術的な価値 の高い知見を有す る	遂行及び成果の公 表にむけて、自立 した研究者として 必要な知識、技
			ි ව	必 安 な 知 職 、 投 能 、 意識を有する
EU400-01-7R-1	ヨーロッパ文化史演習 I	0	0	0
EU400-02-7R-1	ヨーロッパ文化史演習 Ⅱ	0	0	0
EU400-03-8R-2	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ		0	0
EU400-04-8R-2	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ		0	0
EU400-05-9R-3	論文指導 I		0	0
EU400-06-9R-3	論文指導Ⅱ		0	0

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2024年度以前入学生適用

1. 博士後期課程における研究指導計画

博士後期課程は研究者養成を主眼としているので、より高度な指導を行う。提出された「研究計画書」をもとに、研究関連分野の原典および研究論文の読解を中心とする「演習」を2年間にわたって行い、指導教員(主指導教員と副指導教員)がそれぞれの専門分野において博士論文完成までの指導を行う。その過程で博士論文提出までに学術雑誌に論文3本(うち査読付き1本)を発表させる。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科教員によるガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、
	指導教員(主指導教員及び副指導教員)を決定する。
	各大学院生は、指導教員の「演習 I」「演習 II」を履修し、指導教員と相談の上、1年
	次終了時の到達目標を決定する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について、指導教員に報告し、
	指導と助言を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月	1年次に引き続き各大学院生は、指導教員の「演習 III」「演習 IV」を履修し、授業
	を通して博士論文のテーマに即した指導を受ける。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について中間報告会で報
	告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。
2月	各大学院生は、「博士論文中間報告書」を指導教員に提出する。

【3年次】

4月	各大学院生は、指導教員の「論文指導 I」「論文指導 II」を履修し、博士論文の完
	成を目指して必要な助言と指導を受ける。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について中間報告会で報
	告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。
1月	博士論文を提出する。
1月~2月	審査委員4名(主査1名・副査3名)を決定し、論文査読ならびに口述試験による
	最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議
	の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で合否を決定する。

2. 学位 (博士) 論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

博士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

- ①テーマの選択が明確であること。
- ②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえたうえでの研究課題であること。
- ③一次史料を含めて、研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
- ④研究内容や着眼点に独創性があり、当該研究分野への学術的な貢献ができる研究であること。
- ⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
- ⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、博士論文の審査に際して、論文審査委員(主査1名、副査3名:うち1名は学外の専門研究者)が選任され、論文査読ならびに口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、博士論文としての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位(博士)を授与することになる。

○文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程授業科目及び履修単位 2024年度以前入学生適用

(○主指導教員)

	単位							
科 目 名		年	2	年	3	年	担当者名	
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期		
ヨーロッパ文化史演習 I (初期キリスト教文献の研究)	2	半期					吉田	新
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (初期キリスト教文献の研究)	2	半期					吉田	新
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (初期キリスト教文献の研究)			2	半期			吉田	新
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (初期キリスト教文献の研究)			2	半期			吉田	新
ヨーロッパ文化史演習 I (ヨーロッパ社会の成立と構造)	2	半期					○ 櫻井 楠	康人 義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (ヨーロッパ社会の成立と構造)	2	半期					○ 櫻井 楠	康人 義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (ヨーロッパ社会の成立と構造)			2	半期			○ 櫻井 楠	康人 義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (ヨーロッパ社会の成立と構造)			2	半期			櫻井	康人
ヨーロッパ文化史演習 I (宗教改革とヨーロッパ社会)	2	半期					楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (宗教改革とヨーロッパ社会)	2	半期					楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (宗教改革とヨーロッパ社会)			2	半期			楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (宗教改革とヨーロッパ社会)			2	半期			楠	義彦
ヨーロッパ文化史演習 I (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)	2	半期					○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)	2	半期					○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)			2	半期			○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)			2	半期			○ 川島渡辺	堅二 昭一
ヨーロッパ文化史演習 I (キリスト教美術の成立と展開)	2	半期					(本年月	

科 目 名	1	年	2	年	3	年	担当者名
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期	
ヨーロッパ文化史演習Ⅱ (キリスト教美術の成立と展開)	2	半期					(本年度休講)
ヨーロッパ文化史演習Ⅲ (キリスト教美術の成立と展開)			2	半期			(本年度休講)
ヨーロッパ文化史演習Ⅳ (キリスト教美術の成立と展開)			2	半期			(本年度休講)
論文指導 I (初期キリスト教文献の研究)					2	半期	吉田新
論文指導Ⅱ (初期キリスト教文献の研究)					2	半期	吉田新
論文指導 I (ヨーロッパ社会の成立と構造)					2	半期	○ 櫻井 康人楠 義彦
論文指導Ⅱ (ヨーロッパ社会の成立と構造)					2	半期	○ 櫻井 康人楠 義彦
論文指導 I (宗教改革とヨーロッパ社会)					2	半期	楠 義彦
論文指導Ⅱ (宗教改革とヨーロッパ社会)					2	半期	楠 義彦
論文指導 I (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)					2	半期	○ 川島 堅二渡辺 昭一
論文指導Ⅱ (近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開)					2	半期	○ 川島 堅二 渡辺 昭一
論文指導 I (キリスト教美術の成立と展開)					2	半期	(本年度休講)
論文指導Ⅱ (キリスト教美術の成立と展開)					2	半期	(本年度休講)

◎履修方法

2024年度以前入学生適用

3年以上在学し、授業科目について12単位(演習8単位、論文指導4単位)以上を修得し、指導教授の指導の下に必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、優れた研究業績を上げた者と認められる場合には在学期間を短縮し、2年の在学期間をもって修了することができる。

◎履修指導・研究指導の方法

博士後期課程の学生は既に修士論文を作成した経験をもっているのが普通であり、入・進学の時点である程度まで研究テーマが絞られている。そのテーマを真に意味のあるものに鍛え上げ、確実な成果を上げうるように次のような演習、論文指導を行う。

本専攻は、概ね時代別に5つの「研究分野」を設定し、相互に密接な研究テーマを専攻する指導教員が各分野に分属して、それぞれの演習を担当する。さらに論文指導は、各研究分野において演習と関連をもたせながら、直接指導にあたる教員が主指導教員となって行い、これに他の指導教員が協力するという方式をとる。もとより各研究分野の指導教員は必要に応じて他分野に対しても協力する。

ヨーロッパ文化史演習 I · Ⅱ (1 年次)	あらかじめ提出された「研究計画書」をもとに、所属する研究分野で、 主指導教員が中心となってセミナーを行う。先ず博士論文のテーマ及び その研究方法の確認を主たる目標とし、先行研究の調査・整理及びその 正確な理解方法を指導する。他の指導教員はこれに協力する。
ヨーロッパ文化史演習 Ⅲ・Ⅳ (2年次)	主指導教員を中心とし、当該研究分野の他の指導教員の協力による指導体制のもとで、博士論文の骨格作りを目標とするセミナーを行う。ここでは特に研究課題にかかわる資料の調査・蒐集とその批判的研究及びその正確な理解方法等を指導する。
論文指導Ⅰ・Ⅱ (3年次)	演習Ⅲ・Ⅳと同じ指導体制のもとで、博士論文作成に必要な具体的指導を行う。

*文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程研究分野

研究分野 I:初期キリスト教

研究分野 II: ヨーロッパ社会の成立と構造 研究分野 II: 宗教改革とヨーロッパ社会

研究分野Ⅳ:近現代ヨーロッパ社会と世界システムの展開

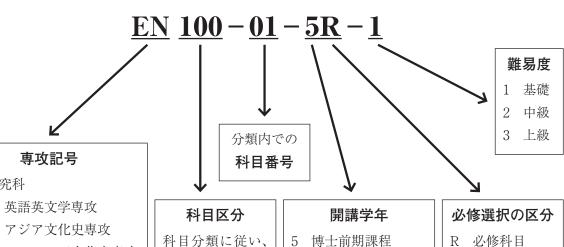
研究分野 V:キリスト教美術の成立と展開

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針(ディプロマポリシー)のいずれを 達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授 与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目についている◎は「その科目がその方針 の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表 しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



文学研究科

EN 英語英文学専攻

AS アジア文化史専攻

EU ヨーロッパ文化史専攻

経済学研究科

EC 経済学専攻

DS 経済データサイエンス専攻

経営学研究科

BU 経営学専攻

法学研究科

LA 法律学専攻

工学研究科

ME 機械工学専攻

EI 電気工学専攻

EE 電子工学専攻

CE 環境建設工学専攻

人間情報学研究科

HU 人間情報学専攻

順に

大分類、中分類、 小分類

中分類または小分 類がない場合は0。

(修士課程) 1年

- 6 博士前期課程 (修士課程)2年
- 7 博士後期課程1年
- 8 博士後期課程2年
- 9 博士後期課程3年

- C 選択必修科目
- E 選択科目

◎文学研究科ヨーロッパ文化史専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ 2024年度以前入学生適用

		学位授与の方針(ディプロマポリシー)		
科目ナンバリング	科 目 名	専攻分野に関する 幅広い視野、専門 的な知識及び思考 力を有する	専攻分野に関する 研究課題につい て、高度に専門的 で、学術的な価値 の高い知見を有す る	専攻分野に関する 学術研究の継続の公 港行及び成果の公 表にむけて、自 した研究者として 必要な知識、 能、意識を有する
EU400-01-7R-1	ヨーロッパ文化史演習 I	0	0	0
EU400-02-7R-1	ヨーロッパ文化史演習Ⅱ	0	0	0
EU400-03-8R-2	ヨーロッパ文化史演習Ⅲ		0	0
EU400-04-8R-2	ヨーロッパ文化史演習Ⅳ		0	0
EU400-05-9R-3	論文指導 I		0	0
EU400-06-9R-3	論文指導Ⅱ		0	0